

- 1 日時 令和5年7月5日(水) 5校時(13:10~13:55)
- 2 場所 体育館
- 3 単元名 とびばこあそび(器械・器具を使っての運動遊び領域 跳び箱を使った運動遊び)
- 4 授業づくりに関する考え方

(1) 子どもの実態と教材の特性

子どもの実態	<p>本学級(男子15名、女子13名)は、「笑顔いっぱい、元気いっぱい」を大切に過ごしている。低学年のうちに多くの「できた!」「分かった!」を経験させ、子どもたちの成長につなげたい。</p> <p>○ 新体力テストや運動会練習等の様子から、運動能力差はあるものの、子どもそれぞれが力を伸ばそうと一生懸命に取り組む姿が見られている。 (知識及び技能)</p> <p>○ 友達と協力しながら、工夫した運動遊びを行うことができるよう取り組んでいる。友達の動きを見て、よいところを少しずつ伝えることができるようになってきている。 (思考力、判断力、表現力等)</p> <p>○ 体育科が好きな子どもが多く、意欲的に取り組んでいる。5月に行われた運動会では、意欲をもって練習に取り組み、精一杯がんばる姿が見られた。その中で、多様な視点から運動遊びを楽しむことができるようになってきている。 (学びに向かう力、人間性等)</p>	教材の特性	<p>跳び箱を使った運動遊びは、跳び箱を使って跳び乗りや跳び下り、手を着いてまたぎ乗りやまたぎ下りをして、跳び箱運動につながる動きを身に付けられる運動遊びである。跳び箱は、高さや向きを変えたり、つなげて階段のようにしたりするなど様々な使い方があり、工夫して運動遊びをすることで楽しさや喜びを感じることができると言える。</p> <p>本単元は、様々な動きにより、多くの運動感覚を養うことができる。場づくりを子ども主体で行い、意欲的に活動に取り組むことができるようにする。また、友達と関わり合いながら運動遊びに取り組むことで、楽しさや喜びを味わいながら夢中になって運動遊びに取り組むことができると考える。</p>
--------	--	-------	---

(2) 単元構想

ア 単元目標

- 跳び箱遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、跳び箱を使って跳び乗りや跳び下りをしたり、またぎ乗りやまたぎ下りをしたりするなどして、遊ぶことができるようにする。
(知識及び技能)
- 跳び箱を使った簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
(思考力、判断力、表現力等)
- 跳び箱遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
(学びに向かう力、人間性等)

イ 本単元で身に付けさせたい力の系統表

学年 観点	低学年	中学年	高学年
知識及び技能	○ 跳び箱遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、跳び箱を使って跳び乗りや跳び下りをしたり、またぎ乗りやまたぎ下りをしたりするなどして、遊ぶことができる。	○ 跳び箱運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、切り返し系や回転系の基本的な技を身に付けることができる。	○ 跳び箱運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりすることができる。
思考力、判断力、表現力等	○ 跳び箱を使った簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。	○ 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。	○ 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせを工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
学びに向かう力、人間性等	○ 跳び箱遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができる。	○ 跳び箱運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができる。	○ 跳び箱運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができる。

ウ 本単元を通して育てたい子ども像（ゴールイメージ）及び教師の願い

友達と共に、夢中になって学習する愛顔あふれる子ども

友達との豊かな関わり合いを通して、跳び箱を使った運動遊びの楽しさやできる喜びを味わわせたい。また、跳び箱を使った運動遊びを多様に楽しむことを通して、他の運動遊びにも前向きに挑戦し、夢中になって取り組む子どもを育てたい。

(3) 単元計画

ア 研究の視点及び手立て

「教材とつながる」	「仲間とつながる」	「自分とつながる」
① 誰もが夢中になれる運動遊びにするために、自分たちが活動したい場づくりを考えさせる。また、運動遊びは多様な関わり方があることに気付くことができるようにする。	② 友達と関わり合いながら学習できるようにするために、教具や学習形態を工夫する。	③ 自らの学びに充実感を得させるために、振り返りの充実を図り、子どもが学習の目標や締めくくりを「つくる」ことができるようにする。

イ 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア 跳び箱を使った運動遊びの行い方を知っている。 イ 跳び箱を使って跳び乗りや跳び下り、またぎ乗りやまたぎ下りをするなどして遊ぶことができる。	ア 跳び箱を使った運動遊びの簡単な遊び方を選んでいる。 イ 友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。	ア 運動遊びに進んで取り組もうとしている。 イ 順番やきまりを守り誰とでも仲よくしようとしている。 ウ 準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。 エ 場や器械・器具の安全に気を付けている。

ウ 単元における指導と評価の計画

時	学 習 の 流 れ	主 な 評 価		
		知・技	思・判・表	態
1	<p>楽しみながらいろいろな動きをしてみよう。</p> <p>○ 単元の流れや約束事を確認した後、いろいろな感覚づくり運動を行う。【視点①】</p>	ア（様態、ワークシート）		ア（様態、ワークシート）
2	<p>友達と楽しみながら運動しよう。</p> <p>○ 感覚づくり運動を行った後、自分たちでつくった場で跳び箱を使った運動遊びを行う。【視点①、視点②】</p>		ア（様態）	イ（様態）
3	<p>みんなで工夫して、みんなでもっと楽しく運動しよう。</p>	ア（様態）		ウ、エ（様態）
4	<p>○ 自分たちでつくった場を改善したり、他のグループがつくった場で活動したりする。【視点①、視点②】</p>	イ（様態）	ア（様態）	
5			イ（様態、ワークシート）	
6	<p>発表会をしよう。</p> <p>○ グループで考えた場での遊び方を発表し、振り返りをする。【視点③】</p>	イ（様態）	イ（様態、ワークシート）	ア、エ（様態）

5 本時の指導（5/6）

(1) 目標

- グループ活動を通して、友達のよい動きや楽しくなるための工夫を伝えることができるようにする。
(思考力、判断力、表現力等)

(2) 準備物

- 教師 跳び箱 マット 踏み切り板 フラットマーカー ウォームアップ動画 プロジェクター
- 子ども ワークシート タブレット かかわりチェック表

(3) 展開

学習活動	教師の働き掛けと子どもの意識の流れ	<input type="checkbox"/> 指導上の留意点 <input checked="" type="checkbox"/> 苦手な子ども・意欲的でない子どもへの支援・配慮 <input checked="" type="checkbox"/> 評価規準（方法）【観点】
1 ウォームアップを行う。	楽しみながらウォームアップをしよう。 ・今日はどんなことをするのか。 ・前回よりも楽しく活動したいな。	<input type="checkbox"/> 音楽に合わせたウォームアップ動画を活用することで、楽しい雰囲気での授業を始められるようにする。
みんなでくふうして、みんなでもっと楽しくうんどうしよう。		
2 感覚づくり運動を行う。	いろいろな動きをしてみよう。 ・動物の動きをするのは楽しいな。 ・他にもいろいろな動きをしたいな。	<input type="checkbox"/> 教師から様々な動きを提示することで、跳び箱を使った運動遊びにつながるようにする。
3 跳び箱を使った運動遊びを行う。 場づくり ↓ 活動 ↓ 場の改善 ↓ 活動	グループで場をつくって活動しよう。 ・楽しく活動できる場を考えよう。 ・がんばっている友達のよいところを伝えよう。 ・前回よりも工夫できて楽しいな。 ・もっと楽しい場をつくるために使える道具はないかな。 ・他のグループが考えた場も楽しいな。 ・できない動きにも挑戦してみよう。	<input type="checkbox"/> 多様な動きを紹介することで、子どもがスモールステップの課題を自ら見付けられるようにする。 <input type="checkbox"/> グループで場づくりをすることで、誰もが夢中になって運動遊びに取り組むことができるようにする。 <input checked="" type="checkbox"/> 誰もが夢中になれる場であるか配慮し、教師が意図的に声掛けをすることで、「する」だけでなく、「みる・支える・知る」の視点から運動を多様に楽しませる。
4 学習を振り返る。 グループ ↓ 全体	今日の学習を振り返ろう。 ・〇〇さんが前よりもできる動きが増えていてよかった。 ・みんなが楽しめるような工夫をグループで考えることができた。 ・今までできなかった新しい動きができるようになった。 ・もっと上手になりたいな。 ・次は発表会をしたいな。	<input type="checkbox"/> 子どもの言葉で作成した「かかわりチェック表」を用いて、グループの友達のよいところを具体的に伝え合うことができるようにする。 <input checked="" type="checkbox"/> グループ活動を通して、友達のよい動きや楽しくなるための工夫を伝えることができる。(様態、ワークシート)【思考力、判断力、表現力等】

(4) 本時の研究の視点

- 運動能力差に関係なく、誰もが夢中になって運動遊びに取り組み、友達と関わり合いながら学習することができているか。【教材とつながる】【仲間とつながる】
- 自らの学びに自信をもち、それを今後の学習につなげていこうとする姿が見られたか。

【自分とつながる】